

吉田春彦

歌人の絵本

かごめかごめ

歌の絵本（かごめかごめ）

絵、文、訳：茜町春彦

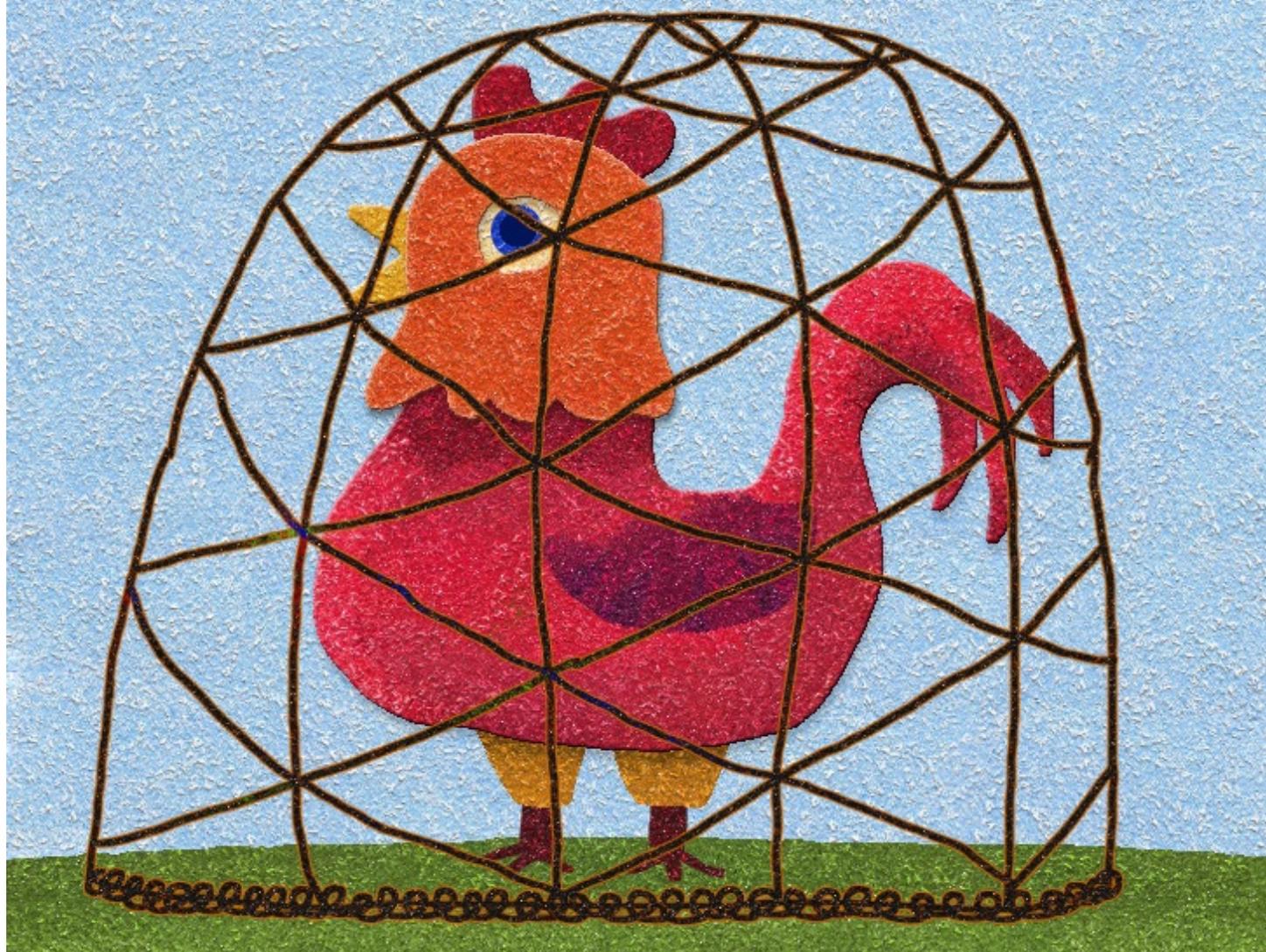
作詞作曲者：不詳（わらべ歌）

かごめ

かごめ

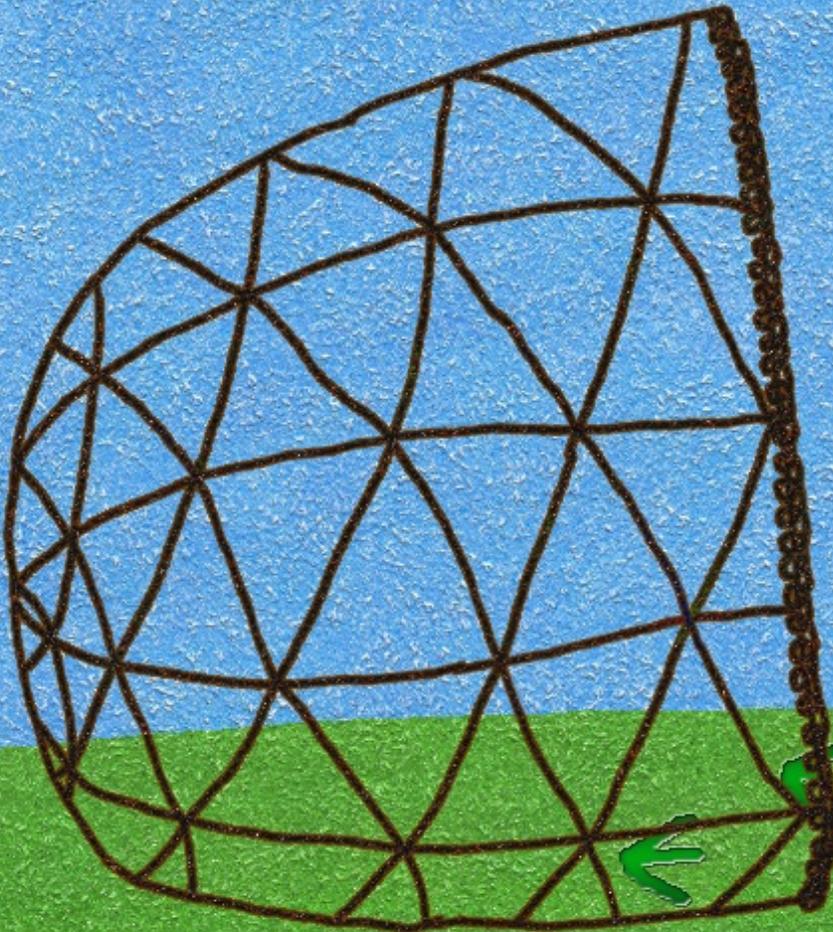
かごのなかの

とりは



כ ה ח ט

רעאז



よあけの

ばんに



つるとかめと
すべった



うし3の
しょうめん
だーれ



『かごめかごめ』

籠目 籠目 籠の中の鳥は

何時何時でやる

夜明けの晩に 鶴と亀と滑った

後ろの正面だ一れ

"Basket weave basket weave"

Basket weave basket weave.

When? When will a bird in a basket gets out?

In an evening of a dawn, a crane and a tortoise and I slipped.

Who faces to my back?

『後ろの正面だ一れ』に対する答え（私案）

歌詞最後の問いに意味があるとするならば、歌詞全体に筋が通っているはずですが。

まず歌の意味を追ってみます。手掛かりとして『夜明けの晩に』を意味の通る形にしてみます。

『夜明けの（はずなのに）晩に（なったように暗い）』と読めば、理解可能になります。

この状況は日食の時には起きるので、この歌は日食すなわち太陽が月の影になり欠けていく様子を表していると思います。

すると、歌詞冒頭の『かごめ』は『欠け目』の転訛と考えることができます。また、古語であれば『影』を『かご』とも云うので『影め』の意で『かごめ』と発音している可能性もあります。

続く『籠の中の』は『影の中の』の転訛と考えます。そして『鳥は』は『虜（とりこ）』の転訛したものです。つまり『太陽は月影の虜になったが、いつ出て来るのだろうか』と解釈できます。

そして『夜明けの（はずなのに）晩に（なったように暗い）』と状況説明が続きます。

『鶴』とは『弦（つる）』の意であり、『亀』は『影』の転訛であり、『滑った』は『続った（合体した）』の意とすると、『太陽の弦の部分と月影が合体して皆既日食が起きた』と理解できます。

また『後ろ』には影という意味があることを考慮すると、次のように纏める事ができます。

欠け目 欠け目 影の中の虜

何時何時でやる 夜明けの（はずなのに）晩に（なったように暗い）

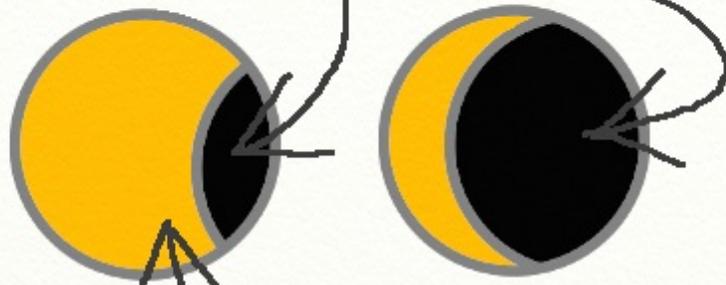
弦と影が続べった （つるとかげが合体して皆既日食が起きた）

後ろ（影）の正面だ一れ

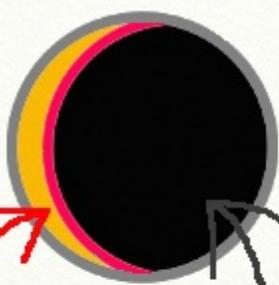
この場合『後ろ（影）』とは月のことなので、月の正面にいるのは太陽になります。

以上より、答えは『太陽』であると推測します。（次頁に参考図を示します）

欠け目

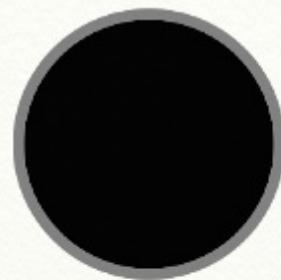


影の中の影



弦
(つる)

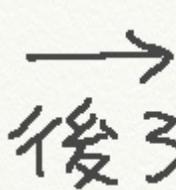
影



続った (合体した)

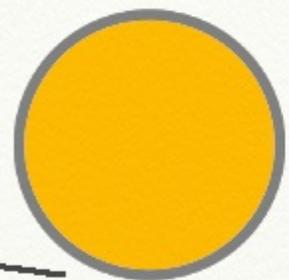


地球

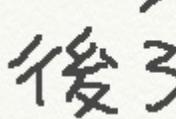


月

後 (影)



太陽



正面

後書き

童謡『かごめかごめ』について：

作詞作曲者：不詳（わらべ歌）

著作権：元から無し

C G画像について：

制作には次の画像処理ソフトウェアを使用しました。

ArtRage 3 Studio Pro（アンビエント社）

Photoshop Elements 10（アドビシステムズ株式会社）

参考文献について：

次の文献を参考にしました。

思い出の童謡・唱歌200： 2012年8月20日 発行

（成美堂出版）

現代実用国語辞典（パステル版）： 2000年8月1日 初版発行

（株式会社学習研究社）

ジーニアス英和辞典〈改訂版〉2色刷り： 1994年4月1日 改訂版初版発行

（株式会社大修館書店）

新コンサイス和英辞典〈革装〉第3刷： 昭和50年9月15日 第1刷発行

（株式会社三省堂）

Longman Dictionary of American English : First printing 1983

(Longman Inc.)

著者について：

茜町春彦（あかねまちはるひこ）と申します。

2004年より活動を始めたフリーランスのライター&イラストレーターです。

作品が社会の進歩に多少なりとも寄与することを願いながら、日々制作を行なっています。

次回予定について：

童謡・唱歌をもとにした絵本の制作を計画しております。

製品名等はメーカー等の登録商標等です。

本書は著作権法により保護されています。

（2013年 5月 茜町）

歌の絵本（かごめかごめ）

<http://p.booklog.jp/book/70796>

著者：茜町春彦

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/akaneharu/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/70796>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/70796>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ